

【5】愛知県安城市に公共施設でのヘイト活動を認めないよう求める特別決議

原案提出：石川つばさ（安城市議）、提案説明：戸田ひさよし（連帯ユニオン議員ネット代表）

当議員ネットは、「差別扇動暴力」たる「ヘイトスピーチ」を許さないという立場に立って、議員集団としては唯一、「ヘイト勢力を許さず断固排撃する」趣旨の決議を、2010年・2012年・2019年大会で上げて強く社会に訴え、ここ10年来一貫して「ヘイトを許さない自治体づくり・社会づくり」の実践と論議を重ねてきた。

その成果の一例として、当議員ネット会員の石川翼市議が存在する愛知県安城市は、2014年6月市議会で、「ヘイトスピーチを目的とし、他の市民に影響を与えることにつながる行為のための利用と分かれば、許可することはできない」と石川議員に答弁し、ヘイトスピーチを容認しない市の姿勢を鮮明にしていた。

ところが今般、安城市民会館2階視聴覚室で3月1日（日）午後1時より、「3・1愛知県を良くするための大演説会」と称する「ヘイト講演会」が予定されている事が判明した。

同講演会チラシによれば、主催は「愛知県を良くする会」で、共催は「日本国民党」及び「大村秀章愛知県知事糾弾実行委員会」となっており、一見すると単に知事に批判的な立場からの政治活動のような体裁を取っている。

政治的な活動や言論は最大限にその自由が保障されてしかるべきであるが、ヘイトはその自由の範疇に含まれない事は、しっかり押さえておくべき公理である。

このチラシは、平和の少女像（いわゆる慰安婦像）などの展示が行われた国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」開催に強い怒りと反発を示しているが、それに留まらず、チラシ記載の連絡先電話番号の持ち主である柘植雅二氏のブログには、新型コロナウイルスについて「シナの伝染病が、全世界に迷惑を巻き散らしています。」「大村売国知事と大村先生が協力しているシナがとんでもない伝染病を起こしています。」などの差別的表現が、それこそまき散らされている。

そして共催団体の一つである「日本国民党」なる団体は、代表の鈴木信行：葛飾区議が、駐韓日本大使館前の慰安婦少女像に「竹島の碑」を縛り付け、韓国当局より入国禁止措置及び指名手配されるなど悪名高いヘイト議員である。

そしてその政策局長の川東大了氏は、元ザイトク会副会長で「京都朝鮮学校襲撃」・「徳島県教組襲撃」、「水平社博物館前差別街宣事件」を起こして有罪判決や賠償金支払い命令を受け、さらに大阪市のヘイトスピーチ抑止条例に基づき市HPで実名が公表されても全く反省せず、政治団体「朝鮮人のいない日本を目指す会」の代表もしている、大阪府枚方市在住の「悪質なヘイト活動家」である。

加えて、講演会の弁士の一人である九十九晃氏は、宝塚市出身で十代の頃から極右ヘイト活動に入り浸ってヘイトスピーチを繰り返して有名になり、2018年には東京都内でヘイトデモ反対派に暴行を加えて現行犯逮捕されている人物である。しかも、「しばいた事に対して一切の後悔はありません」、「警察に代わり実力行使で排除したまでの話」、などと自身のブログに記して居直っている、これまた「悪質なヘイト活動家」である。

これら、「3/1講演会」を主催・共催したり講師参加する個人および団体のこれまでの行動を鑑みれば、まさに「ヘイトスピーチ常習者」や「ヘイト暴力犯罪の反省無き実行犯」達が企画し、宣伝し、結集する講演会であり、安城市民会館の利用申請書がどう取り繕われていようと、3月1日の講演もヘイト講演会になることは明らかである。

それゆえ、ヘイトスピーチに強く反対し、川崎市での刑事罰付き「ヘイトスピーチ禁止条例」誕生に大きく寄与した「カウンター」市民達が、愛知県はもとより中部地方規模、全国規模で安城市での「3/1ヘイト講演会絶対阻止！」の動きを猛然と拡大させている。

石川つばさ議員を筆頭とする我々は、こういうカウンターの人々も含む広範な人々と共同して「ヘイトを許さない自治体づくり」に邁進する立場から、安城市当局（教育委員会含む）が書面上の体裁でなく、「ヘイトを容認しない」という姿勢に基づいた対応をされる様、下記の通り要求する。

一、安城市は、2020年3月1日に安城市民会館2階視聴覚室で予定されている

「3・1愛知県を良くするための大演説会」の会場使用許可を取り消してください。